

市民意見交換会（ラウンドテーブル）

～第6次松山市総合計画の策定に向けて～

テーマ1：少子化対策

テーマ2：雇用の促進

テーマ3：災害に強いまちづくり

《第6次松山市総合計画への反映状況》

テーマ 1 : 少子化対策

松山のここが問題！	松山を変えるアイデア！	頁
(1) 子どもを産むまでの課題・不安		
① 非婚・未婚・晩婚が増加している	提案 1 「親子の日」の制定	11
	提案 2 同窓会の開催支援	12
② 出産に不安を感じるカップルがいる	提案 3 妊婦への情報提供の仕組みづくり	13
	提案 4 「父親教室」の開催	14
(2) 子育ての課題・不安		
① 地域で孤立している親子がいる	提案 5 「子育てサロン」の設置	15
	提案 6 「ワンストップ相談窓口」の設置	16
	提案 7 「子育てガイドブック」の作成	17
② 子育て支援活動が十分に利用されていない	提案 8 「子育て情報の提供拠点」の設置	18
	提案 9 「子育てサークル活動」の活性化	19

(1) 子どもを産むまでの課題・不安

総合計画への 反映状況	<ul style="list-style-type: none">・ P. 14 の「5. まちづくりの基本目標」の「健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】」に、子育て世代が、安心して子どもを産み育てられる環境を整備することの必要性を位置付けています。・ 対応する重点プロジェクトとして、P. 36 の「2-2 出会いから子どもの成長まで『つながる未来応援』プロジェクト」の②主な取り組みにおいて、「出会いのサポート」及び「安心して子どもを産むことができる環境の整備」を位置付けています。・ P. 53 の「政策 1. 地域全体で子育てを支える社会をつくる(11)」の「現状と課題」の中で、若い世代の社会生活における選択肢の多様化などによる自らのライフスタイルに対する考え方の変化を一因とする、晩婚化・非婚化が進行していることを受けて、若者のよきパートナーとの出会いを支援することの必要性を位置付けるとともに、妊娠・出産における不安感・孤立感といった精神的負担を軽減するために、安心して妊娠・出産できる環境を整備することの必要性を位置付けています。・ 対応する施策として、P. 55 の「施策 2. 出会いからの環境整備(112)」において、出会いの場の創出を支援するなど、若者がよきパートナーと出会う機会を提供するとともに、地域の医療機関と連携を図るなど、安心して妊娠・出産を迎えるための環境を整備することを位置付けています。
----------------	--

(2) 子育ての課題・不安

<p>総合計画への 反映状況</p>	<ul style="list-style-type: none">・P. 14の「5. まちづくりの基本目標」の「健やかで優しさのあるまち【健康・福祉】」に、子育て世代が、安心して子どもを産み育てられる環境を整備するとともに、元気でいきいきと暮らせるような地域の基盤づくりに地域全体で取り組むことの必要性を位置付けています。・対応する重点プロジェクトとして、P. 36の「2-2 出会いから子どもの成長まで『つながる未来応援』プロジェクト」の②主な取り組みにおいて、「子育て・子育てに関する相談体制の充実」及び「子どもの居場所づくり」の推進を位置付けています。・P53の「政策1. 地域全体で子育てを支える社会をつくる(11)」の「現状と課題」の中で、育児における不安感・孤立感といった精神的負担を軽減するために、子育て相談機能を強化するとともに、子育て世代の親が気軽に集い交流しながら、情報交換ができる地域の子育て拠点を整備することの必要性を位置付けています。・対応する施策として、P. 54の「施策1. 子育て環境の充実と整備(111)」において、地域が一体となって、子どもたちが安心して遊べ、親たちも互いに交流できる拠点づくりに取り組むとともに、福祉や医療、教育などの関係機関と連携を図りながら、相談機能の強化に取り組むほか、子育て支援情報の周知に取り組むことを位置付けています。
------------------------	---

テーマ 2 : 雇用の促進

松山のここが問題！	松山を変えるアイデア！	頁
(1)雇用の受け皿が増えない		
① 既存企業の成長が弱い	提案 1 既存企業のレベルアップ（坂の上の雲）	20
	提案 2 市内ビジネスネットワークの充実	21
	提案 3 補助金・支援制度の活用促進	22
	提案 4 ものづくりのブランド化と国際展開支援	23
	提案 5 松山農業の6次産業化の促進	24
② 企業誘致による雇用が少ない	提案 6 企業誘致の強化と定着促進	25
③ 起業が少ない	提案 7 起業の促進	26
(2)成長に必要な人材が確保できない		
① 既存社員に必要能力が不足	提案 7 社員の能力開発の支援	27
② 若い人材を確保できない	提案 8 若い人材の地元就職の促進	28
③ 安定した職に就けない就業者・離職者がいる	提案 10 求職者の職業能力の向上支援	29
④ 多様な人材の活用が不十分	提案 11 多様な人材の採用の支援	30
⑤ 経営層の人材マネジメントに課題	提案 12 経営層の人材マネジメント力の向上の支援	31

(1) 雇用の受け皿が増えない

総合計画への 反映状況

- P. 16 の「5. まちづくりの基本目標」の、「地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】」に市内企業のほとんどを占める中小企業をはじめ地場産業の更なる振興を図るほか、市外からの企業誘致の促進などに継続的に取り組み、新たな雇用を創出するとともに、担い手の育成や確保など次の世代につながる農林水産業の振興を図ることで、誰もが仕事や生活の調和のとれた安定した生活を営むことができるまちづくりを進めることを位置付けています。
- 対応する重点プロジェクトとして、P. 28 の「1-2 元気な産業と人財が創り出す『経済活性化』プロジェクト」の②主な取り組みにおいて、「企業誘致活動と立地環境整備の推進」及び「既存産業の活性化と成長産業の振興」を位置付けています。
- P. 81 の「政策 1. 暮らしを支える地域経済を活性化する(31)」の「現状と課題」の中で、本市の企業のほとんどを占める中小企業や地場産業について、様々な業種の経営環境が厳しい状況にあることを受けて、企業誘致の推進や既存企業が操業しやすい環境を整備することで、市内を拠点として継続した企業活動や事業拡大に向けた支援により、雇用の創出を図ることの必要性を位置付けています。

また、農林水産業については、生産物の価格低迷や担い手不足の深刻化などを受けて、生産基盤や集落環境の整備、農林水産物の高品質化や高付加価値化を推進するとともに、多様な担い手の確保・育成など、次の世代につながる持続可能な農林水産業の構築を図ることの必要性を位置付けています。

そして、業種を問わず企業活動の規模を拡大するために、県外・海外の取引先獲得による新たな市場の開拓や、消費者ニーズに適合した商品などの開発、成長分野への参入などを積極的に進めていく必要性を位置付けています。
- 対応する施策として、P. 83～P. 84 の「施策 2. 事業所立地と雇用創出の推進(312)」において、市内企業による事業活動がより活発になり、市外からも企業が進出してくるなど、市内経済を活性化するため、長く本市で事業活動が可能となる企業誘致の推進と流出防止、適正な産業立地や広域からのアクセス向上などの産業基盤の充実、中央商店街や地域の商業集積地におけるにぎわいの再生や空き店舗解消などの支援による商業振興、有望な産業分野の事業展開の支援や地元企業の事業拡大の推進、地場産業の経営基盤の強化や新規創業などの支援による中小企業の振興などの取り組みを位置付けています。

また、P. 85 の「施策 3. 農林水産業の活性化(313)」において、持続可能な農林水産業を構築するため、安定的な生産体制構築への支援や商品の高品質化、高付加価値化による経営の安定化、就農希望者の受け入れ態勢の構築などを行うとともに、農業用施設や漁港など、農林水産業の生産や農山漁村の集落環境の向上に関わる基盤整備を位置付けています。

(2) 成長に必要な人材が確保できない

<p>総合計画への 反映状況</p>	<ul style="list-style-type: none">・対応する重点プロジェクトとして、P. 28 の「1-2 元気な産業と人財が創り出す『経済活性化』プロジェクト」の②主な取り組みにおいて、「働き続けられる環境づくりの推進」及び「キャリア教育の充実」を位置付けています。 また、P. 46 の「3-3 誰もが自立し個性を認め合う『いきいきと暮らせるまちづくり』プロジェクト」の②主な取り組みにおいて、「障がい者・高齢者の社会参加・就労支援・相談支援」を位置付けています。 ・P. 81 の「政策 1. 暮らしを支える地域経済を活性化する(31)」の「現状と課題」の中で、厳しい雇用環境のもと、新卒者の就職難や離職者、非正規労働者の増加など、若年者の雇用が社会問題化していることを受けて、正規雇用の促進や職業意識の向上につながる取り組みの必要性を位置付けているほか、将来的に労働力人口の減少が見込まれることから、年齢や性別などにかかわらず、働く意欲と能力のある人の多様な就労を促進する必要性を位置付けています。 また、P. 57 の「政策 2. 暮らしを支える福祉を充実する(12)」の「現状と課題」の中で、高齢化社会の進行や、障がい者数の増加などを受けて、高齢者や障がいのある人に就労する機会を確保することの必要性を位置付けています。 ・対応する施策として、P. 82 の「施策 1. 雇用・就労環境の整備(311)」において、若年者の職業能力の開発や向上、非正規雇用や早期離職について、正規雇用の促進や教育機関との連携に努めながら職業意識の啓発を推進するとともに、企業が求める能力や資格を備えるため、求職者に対する教育訓練による技能の向上や資格取得などを推進することを位置付けているほか、求職者に対する合同就職面接会や就職関係情報の発信により、就労機会を提供することを位置付けています。 また、P. 83～P. 84 の「施策 2. 事業所立地と雇用創出の推進(312)」において、中小企業の振興策として、経営者の資質向上や勤労者の人材育成などの機会を提供するとともに、P. 96 の「施策 1. 知・徳・体の調和のとれた教育の推進(411)」において、経済団体など関係機関との連携を図りながらキャリア教育など多様な教育を推進することを位置付けています。 そして、P. 58 「施策 1. 高齢者福祉の充実(121)」において、高齢者の経験と知識を生かした就労機会の充実を図ることを位置付けているほか、P. 59 「施策 2. 障がい者福祉の充実(122)」において、関係機関との連携を図りながら、一般就労や福祉的就労に向けた支援や職業能力の開発などに取り組むことで、就労機会の確保を図ることを位置付けています。
------------------------	---

テーマ 3 : 災害に強いまちづくり

松山のここが問題！	松山を変えるアイデア！	頁
(1)大規模地震への備えに不安		
① 各家庭の災害への備えが弱い	提案 1 防災マップを活用した防災知識・情報の普及	32
② 家具固定の実施率が低い	提案 2 家具固定の促進	33
③ 避難訓練の参加者が少ない	提案 3 避難訓練の実施	34
(2)大規模地震の発生時の対応に不安		
① 自分や家族の身を守れるか不安	提案 4 初動ノウハウの普及	35
② 学校や職場等の初動が不安	提案 5 学校や職場等での初動体制の確保	36
③ 外出時に避難先が分からず不安	提案 6 外出場所での避難場所の表示	37
④ 家族の安否が確認できるか不安	提案 7 災害用伝言ダイヤルの番号の周知	37
⑤ 避難所が適切に運営されるか不安	提案 8 避難所の開設訓練	38

(1) 大規模地震への備えに不安

<p>総合計画への 反映状況</p>	<ul style="list-style-type: none">・P. 15 の「5. まちづくりの基本目標」の「生活に安らぎのあるまち【安全・安心】」に、本市の自主防災組織結成率は100%、防災士数は全国一となるなど、地域における防災の基盤づくりが進んでいる一方で、個々の家庭での取り組みがまだまだ不十分な現状にあることから、危機管理体制の強化や避難・備蓄対策の推進、防災訓練に一層取り組んでいくことを位置付けています。・対応する重点プロジェクトとして、P. 42 の「3-1 地域ぐるみで備える『危機管理能力向上』プロジェクト」の②主な取り組みにおいて、「危機管理体制の強化」、「避難・備蓄対策の推進」及び「自主防災・企業防災等の強化」を位置付けています。・P. 69 の「政策 1. 災害等に強いまちをつくる(21)」の「現状と課題」の中で、市民一人ひとりが災害に備えるため、家具の固定をしている市民の割合などを例に市民の防災意識の現状を明記するとともに、今後一層、防災意識の普及啓発を図ることの必要性を位置付けています。・対応する施策として、P. 72 の「施策 3. 地域防災力の向上(213)」において、防災マップの更なる周知啓発などをおして、市民の防災意識の向上に取り組むほか、住民参加による実践的な防災訓練を実施することで災害への備えを充実させることを位置付けています。 また、指標として「自主防災組織による防災訓練への参加者数」を掲げ、数値目標を設定したうえで、地区防災訓練への参加者数を増加させることとしています。
------------------------	--

(2) 大規模地震の発生時の対応に不安

総合計画への 反映状況

- ・P. 15 の「5. まちづくりの基本目標」の「生活に安らぎのあるまち【安全・安心】」に、本市の自主防災組織結成率は 100%、防災士数は全国一となるなど、地域における防災の基盤づくりが進んでいる一方で、関係団体間での連携がまだまだ不十分な現状にあることから、国・県・他市町・関係機関との連携体制や地域の関係団体間のネットワークづくりを強化するとともに、地域や学校における自主防災力の更なる向上や災害時要援護者にも配慮した自助・共助の取り組みを一層進めることで、災害発生時にも迅速に対応できる環境を整備することを位置付けました。
- ・対応する重点プロジェクトとして、P. 42 の「3-1 地域ぐるみで備える『危機管理能力向上』プロジェクト」の②主な取り組みにおいて、「危機管理体制の強化」、「避難・備蓄対策の推進」及び「自主防災・企業防災等の強化」を位置付けています。
- ・P. 69 の「政策 1. 災害等に強いまちをつくる(21)」の「現状と課題」の中で、東日本大震災において、行政だけによる大規模災害への対応の限界が浮き彫りとなり、市民一人ひとりの備えや自主防災組織の活動などにより自らの地域は自らで守る「自助・共助・公助」という考え方が必要不可欠となったことから、自主防災組織や消防団、学校や公民館など、地域の関係団体間での連携を強化するとともに、避難情報などの緊急情報があらゆる人々に確実に伝わるような仕組みを構築することの必要性を位置付けています。
- ・対応する施策として、P. 72 の「施策 3. 地域防災力の向上(213)」において、企業や学校における防災力の向上に取り組むとともに、地域の関係団体間のネットワークづくりを強化し、より質の高い各種訓練などを実施することとしているほか、防災イベントや防災教育などをおして、いざという時、一人ひとりが適切に対応するための防災意識の普及・啓発に取り組むことを位置付けています。
また、P. 70 の「施策 1. 防災対策等の推進(211)」において、避難所標識や物資、資機材の適切な整備を図ることを位置付けるとともに、P. 71 の「施策 2. 災害発生時における体制の整備(212)」において、災害発生時に緊急情報をあらゆる人々に迅速かつ確実に伝達するため多様な手段をとおした情報伝達に努めることを位置付けています。

参考 : 各テーマの提案集

テーマ1 : 少子化対策

<p>提案1</p>	<p>「親子の日」の制定</p>
<p>目的</p>	<p>結婚し、子どもをもうけることの良さを若い世代に実感してもらうため、「親子の日」を制定する。</p> <p>子どもの日、母の日、父の日、敬老の日、いい夫婦の日、などはあるが、「親子」にスポットを当てた記念日がない。「親子の日」を制定することで、親と子の絆、家族のつながりの良さを再確認し、結婚して家族・家庭を築くことのすばらしさを感じてもらう。</p>
<p>概要</p>	<p>[開催概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内各所で「親子」に関する講座・イベント等を実施する。 ・ 公園、映画館、ボウリング場等市内の様々な場所で展開する。 <p>[開催内容（例）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の写真コンテストの開催 ・ 家族の良さを実感できる、古今東西の映画上映 ・ 三世代家族でチームを組むような、年齢混合ボウリング大会の開催 ・ 公共施設や飲食店等で、家族で来ると特別な特典を付与 ・ 素敵な家族を築いている芸能人・スポーツ選手等を招いたトークショーの開催 ・ 多世代交流スポーツ大会の開催 ・ 子育てについての講座（保健師・看護師・助産師等による講座、先輩パパ・ママによる体験談など）
<p>役割分担 ・体制</p>	

提案 2	同窓会の開催支援
目的	結婚しない若者の増加の一因として、出会いの場の不足があると考えられる。同窓会は男女の自然な出会いの場として有効に機能する可能性があることから、松山市内の学校の同窓会の開催を支援することで、カップルの誕生を応援する。
概要	<p>[支援概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 松山市内の学校の同窓会の開催を支援する。 (支援内容例) 同窓会の幹事の代行 各学校のOBが経営する飲食店の紹介 <p>[特典・おまけ・仕掛け等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 20～30歳代であれば、入学・卒業年次に関係なく、同窓会に参加できるようにする。 各地の愛媛県人会等と連携し、就職等で松山を離れている人にも参加を呼びかける。 松山を離れている人については、同窓会による帰郷→出会い→結婚をきっかけに、Uターンを意識してもらえる可能性もある。同窓会では行政や地元経済界からUターン就職等の情報提供も行う。 「少子化対策のため」と押し出すと結婚を強いているようで参加者が身構えてしまう恐れがあるので、「少子化対策」とは銘打たない。 男子校・女子校については相手校を設定して合同で行う。
役割分担 ・体制	<pre> graph TD School[学校] -- "開催案内" --> OB[学校OB (20~30代)] School -- "教員参加 学校案内" --> Reunion["「同窓会」の開催 出会い"] OB -- "出席" --> Reunion County[県人会等] -- "開催案内" --> OB County -- "協力要請" --> Admin[行政(幹事代行)] Admin -- "開催案内 Uターン就職情報" --> OB Admin -- "会場手配" --> Shop[店舗] Shop -- "優遇" --> Reunion </pre>

提案 3	妊婦への情報提供の仕組みづくり
目的	<p>妊娠・出産を支援するため、行政や産婦人科等の様々な主体が様々な取組を行っているが、その活動はあまり知られていない。出産して初めて気がつく母親も多い。</p> <p>そこで、妊娠時における妊婦の不安が軽減されるように、情報提供の仕組みをつくる。</p>
概要	<p>①正確な情報を広く届ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 婚姻届提出時に、子育てに関する情報提供を行う。(妊娠・不妊治療の支援、住宅支援等) ・ 市内の産婦人科に、妊娠・出産に関する行政の支援情報のチラシをおいておく。 ・ 妊娠・出産にかかわるインターネット上の地域の口コミサイトを市役所がチェックし、投稿者の疑問や誤解に対して、正しい情報をコメントする。 <p>②妊婦を孤立させない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産婦人科などにおける母親学級を充実する。 ・ マタニティー期に妊婦どうしの交流を図る。(将来のママ友づくり)
役割分担 ・体制	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>妊婦に様々な支援情報が届く → 不安の軽減へ</p> </div>

提案 4	「父親教室」の開催
目的	<p>父親が抵抗感なく、出産・育児に参加し、母親を支えられるように、出産前からのシリーズ化された父親教室を開催する。</p> <p>この教室を開催することにより、妊娠期のパートナー（母親）の体調や心の変化、出産・育児について認識を深めるとともに、父親どうしのつながり作りを進め、出産後を見据えた地域における子育ての支え合いやコミュニティ作りにもつなげていく。</p>
概要	<p>[開催時期・場所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土日や平日の夜間など、男性が参加しやすい多様な時間帯に開催する。 ・ 市中心部の保健センターだけでなく、公民館等身近な地域で開催する。 ・ 1回限りの開催ではなく、複数回の連続講座として開催する。 <p>[講座内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母体の体の変化・精神的変化についての理解と適切なフォローの仕方 ・ 料理、洗濯、おむつ換え、離乳食づくり、ママがいない時のお留守番講座 ・ 病気・怪我の時の応急手当講座 ・ パパならではの「子どもとの遊び方教室」 ・ 悩みや不安、楽しみ・期待などを共有するグループディスカッション ・ 先輩子育て世代からの体験談や交流 ・ 市の子育て支援施策や必要な手続き等の説明 <p>[特典・おまけ・仕掛け等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数回の参加を促すために、ポイントカードを設け、一定数たまったら、おむつやおもちゃ等の景品を渡す。（企業とタイアップ） ・ 父親のみでも、夫婦そろってでも参加可とする。 ・ 母子手帳支給時に、簡易版「父子手帳」を付録として付け、父親教室の案内も綴じ込む。
役割分担・体制	<pre> graph TD Top[父親教室の開催(出産前からの連続講座)] Father[父親(出産前含む)] Admin[行政] Medical[医療機関等] Corp[企業] Father -- 参加 --> Top Admin -- 講師派遣(支援施策、手続き等を説明) --> Top Medical -- 講師派遣(看護師、保健師、助産師等) --> Top Corp -- 景品提供(参加特典) --> Top Admin -- 協力依頼 --> Corp Note[母子手帳支給時に「父子手帳」も支給(父親教室の案内を綴じ込む)] Note --- Admin </pre>

提案 5	「子育てサロン」の設置
目的	<p>曜日・時間帯によっては子育て中の親子が集える場があるが、子育て中のお母さんが、身近な場所（小学校区単位）で、いつでも気楽に集い、何でも話し合える場、友達を作れる場として「子育てサロン」を、地域の連携により設置する。</p> <p>母子手帳の支給時や出生届を提出した時に、身近な「子育てサロン」を紹介する。妊婦の時からも参加できることとし、子どもが生まれる前からお母さんどうしの交流を育む。</p> <p>お母さんの悩みによっては、適切な専門機関につないでいく。</p>
概要	<p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てなんでも相談室 ・すくすく広場 <p>[会場、利用方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援センターや公民館などの既存施設を活用する。 <ul style="list-style-type: none"> －小さい子ども（赤ちゃん）と大きな子どもとで遊ぶ部屋を分ける。 －予約せずに朝～夕方ぐらいまで自由な時間に入出りできるようにする。 －駐車場の確保が望まれる。（施設の場所によっては） <p>[活動内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で自由に遊べる、おしゃべりできる。（おもちゃなどがある。） ・参加者みんなでの遊び・歌（教えてもらえる。） ・簡単な相談（子どものこと、子育てのことなど何でも） <p>[広報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙、町内会の回覧板、チラシ、インターネット、口コミなど
役割分担 ・体制	<div style="text-align: center; border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> いつでも気軽に集い・楽しく交流できる「子育てサロン」の設置 <small>（小学校区ごとに地域で協力して運営）</small> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>↑ 参加 交流</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80px;">親子</div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↑ 遊び・交流の支援 相談相手</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">ボランティア <small>（子育て経験者）</small></div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↑ おもちゃ・ 服などの寄付</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80px;">地域 住民</div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↑ 会場提供 関係機関との連携</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">公共施設 <small>〔支援センター 公民館 等〕</small></div> </div> </div> <p>※まず、地域の親子を含めて、関係者で話し合い、どのようなサロンにするのかを話し合い、運営体制を確保しながら、徐々にかたちにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> －立ち上げ時から毎日開催する必要はない。（無理する必要はない。） －いきいきサロンが活性化しているので、運営の秘訣を社協から教わる。 －体制ができた地域から開設していく。

提案 6	「ワンストップ相談窓口」の設置
目的	<p>子育てをしていると様々な悩みや困りごとがある。相談を聞いてもらえることで、安心することもある。現在も様々な窓口が設けられているが、どこへ相談すればよいのかがわかりにくいといった課題がある。そのため、孤立している親子、一人で悩んでいる保護者もいると思われる。</p> <p>そこで、保護者が抱える様々な悩みをワンストップで受け付ける相談窓口を設置する。これにより、「どこへ相談すればよいか」ということで戸惑うことがなくなる。ワンストップ窓口では、寄せられた悩みをどんなことであっても、まず受け止めることに徹し、必要に応じて専門機関へつないでいく。赤ちゃん相談の延長的なもので、1才以降の親子が気軽に相談できるようにする。「気軽に相談できる窓口」として相談実績を積み重ね、親子への周知をはかる。</p> <p>利用者が相談しやすいように、「相談員が対応する窓口」と「電話による相談窓口」の両方を設置する。</p>
概要	<p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て何でも相談 ・子育ての疑問・悩みには、まずはお電話一本！ <p>[相談員が対応する窓口]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な場所（小学校区単位）での設置が理想である。 （場所の例）公民館、小児科、保育園、スーパー等 ※保健所、保健センターが遠くて利用しにくい人もいるため。 ・夜間（19時～21時ぐらい）や土日に相談できる窓口も別途必要である。 ・相談することで気持ちやストレスが整理できる場合もあるので、相談したい人が「言いたい所まで話せばよい」こととする。（愚痴を聞くだけでよしとする。） ・小さな子どもを預かり、子どもを遊ばせながら、相談できるようにする。 <p>[電話相談]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理想は24時間の受付だが、昼間よりも夜間のニーズが高いと考えられる。 ・どんな相談でも受け止め、必要に応じて来所を促したり、関係機関につなぐ。
役割分担・体制	<p>悩み・ストレスを抱えている保護者</p> <p>↓ チェックシートによる状況把握→相談</p> <p>窓口相談(ワンストップ受付) 「子育てアドバイザー」が一次対応 (退職した幼稚園園長、ベテラン保育士、子育て経験者(ボランティア)を登録し、一定の研修後に配置)</p> <p>↓ 連携</p> <p>電話相談 子育て経験のある保健師や保育士が対応 (スキルのあるNPOへの委託も考えられる)</p> <p>↑ 連携</p> <p>↓ 助言・支援</p> <p>専門的な関係機関（専門家） ※発育や発達の相談など</p>

提案 7	「子育てガイドブック」の作成
目的	<p>松山市には、子育てを支援するための施設やサービスなど様々な社会資源があるが、必ずしも有効には活用されていないと思われる。「今あるものをもっと活かす！」ことが必要である。</p> <p>安心して子育てをするために、楽しんで子育てをするために、行政や民間の子育て支援サービスの情報をわかりやすく提供し、これらのサービスの有効活用につなげることで、育児の負担や不安を少しでも軽減する。</p>
概要	<p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て総合便利ノート ・困った時のお助けガイドブック ・子育て楽しくガイドブック ・子育ていろいろお役立ちBOOK! ・安心ガイドブック <p>[内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『このような時こうすればよい』というよう調べ方ができるガイドブック (例) 遊ぶ、食べる、病気、相談(発達、虐待等)、保育所・幼稚園 ・関係機関・施設の情報 (名称、施設やサービスの内容、営業時間、休業日、所在地、電話番号) ・支援制度や補助金の内容 ・専門家によるコラム(行政、支援センター、保健師から伝えたいこと) <p>[編集での工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の親子や子育て経験者の声を取り入れて冊子の原稿を作成する。パソコンや携帯電話のネットを使わない保護者の意見も把握する。 ・0～6歳までの各歳別で作成。毎年4月に必要分を受け取れるようにする。 ・実用的でわかりやすいものとする。(ビジュアル・見出しの工夫、開きやすさなど) <p>[配布方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なタイミングで配布する。(転入者もいるため) (産婦人科受診、母子手帳配布、出生届提出、赤ちゃん訪問、3ヶ月健診等) ・インターネットにもガイドブックのページを設ける。
役割分担 ・体制	<pre> graph TD A["子育て中の保護者 子育て経験者"] -- "提案・要望 (アンケートに回答)" --> B["「子育てガイドブック」編集会議 ～市民の声を取り入れて作成～"] C["行政・関係機関"] -- "編集会議に参加" --> B B --> D["「子育てガイドブック」 の作成 (行政、民間の情報)"] D -- "様々なタイミングで冊子を配布 インターネットでの公開・ダウンロード" --> A </pre>

提案 8	「子育て情報の提供拠点」の設置
目的	<p>松山市では、日々、様々な子育て支援に関わる行事・イベントが行われているが、開催場所が遠かったり、対象年齢が自分の子どもに合わない場合は参加することができない。多くの情報の中で、実際に参加・利用が可能な行事・イベントの情報が埋もれてしまい、見逃してしまうことも起こっているように思われる。</p> <p>そこで、身近な地域で行われる行事・イベントなどについての情報を、子育て中の親子がよく行く場所で提供する。</p>
概要	<p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みてみて！あなたの〇〇地区の子育て情報！ ・子育てBOX ・知ってる？子育て情報まつやま <p>[子育て情報の提供拠点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てをしている保護者がよく行く場所 (例) スーパー、コンビニ、病院（小児科、産婦人科等）等 ・健診会場（小学校区単位で開催する。友達ができる機会にもなる。） <p>[提供する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象年齢別の行事・イベント情報（親子ひろば、外遊びなど） ・子育てサークルなど事前に登録している団体の情報 ・子連れでの食事がOKな飲食店の情報 ・様々なクーポン券、セールなどの割引情報 ※最寄りの地域に関わる情報に限定する。 ※情報がほしい人、情報を発信したい人が集まり、どのような情報を提供するのかを検討する。また、チラシの配布・管理の体制をつくる。 <p>[運営方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力店舗を募集する。 ※店員は、子ども連れの利用者がきたら情報をみるように促す。 ※協力店舗にもメリットがあるような工夫をする。 ・産婦人科では、最寄りの子育て支援拠点（保育所・幼稚園）や子育て情報の提供拠点の場所を妊婦に教える。
役割分担・体制	<pre> graph TD A[「子育て情報の提供拠点」の設置 (身近な店舗等でチラシ等を配布)] B[「子育て情報の提供拠点」の運営体制] C[子育て中の親子] D[子育て親子向けの 各種イベント、サービス] E[情報を発信したい主体 行政 子育てサークル 店舗等] E -- "発信したい情報 (新しいチラシなど)" --> B B -- "新しいチラシの配達" --> A A -- "古いチラシの回収" --> B A -- "来店" --> C C -- "情報提供 (チラシ等)" --> A C -- "参加・利用" --> D D -- "子育て支援活動" --> E </pre>

提案 9	「子育てサークル活動」の活性化
目的	<p>「みんなで助け合おう子育て！！（一人じゃないよ♪）」という趣旨で「子育てサークル」が様々な活動をしているが、あまり知られていない。また、自分たちで「子育てサークル」を作ろうという動きも少ない。</p> <p>楽しんで子育てをしていくために、子育て中の親どうしが相談しあって子育てができる環境づくりの一つとして、子育て経験者の協力などを得ながら、松山市において「子育てサークル」の活動を活性化し、子育てに一人で悩んでいる保護者を減らす。</p>
概要	<p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達でつくろう育児サークル♪ <p>[取組内容]</p> <p>①既に活動している「子育てサークル」に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークルの活動情報（時間、場所、活動内容）の発信 （例）子育てサークルについての情報誌の作成 ・子育てサークルに対する支援制度の情報の提供 （例）事業者による活動補助制度 ・子育てサークルの活動内容の充実の支援 －魅力的な活動内容となるように関係機関が協力 （例）子どもの健診、ベビーマッサージ、お話会などの活動 <p>②新たな「子育てサークル」の設立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子育てサークルアドバイザー」による支援 －子育てサークルの設立方法についての情報提供・助言 －子育てサークルの設立の呼びかけ －子育てサークルの運営についての助言 <p>※子育てサークルを巣立った人などに、「子育てサークルアドバイザー」などとして運営に協力していただく。</p>
役割分担 ・体制	<pre> graph TD Parents[子育て中の親子] -- "参加・交流" --> Activation[「子育てサークル活動」の活性化] Parents -- "運営" --> Management[「子育てサークル」の運営の世話役] Management -- "楽しい企画" --> Activation Management -- "情報" --> Magazine[子育てサークル情報誌] Magazine -- "サークル情報" --> Parents Support[子育てサークルの活動助成] -- "資金" --> Management FormerMembers[子育てサークルを巣立った人] -- "協力" --> Management FormerMembers -- "協力" --> Activation FormerMembers -- "協力" --> Advisor[子育てサークルアドバイザー] Advisor -- "設立・運営の助言" --> Management </pre>

テーマ 2 : 雇用の促進

<p>提案 1</p>	<p>既存企業のレベルアップ（坂の上の雲）</p>
<p>目的</p>	<p>既存企業が、自立的に成長分野等でのビジネスチャンスの拡大に取り組み、より成長していけるような仕組みをつくる。 既存企業が、現状よりも高いレベル（坂の上の雲）をめざすことを支援することで、事業の拡大や活性化につなげ、雇用の維持・創出を図る。</p>
<p>概要</p>	<p>①成長分野への既存企業の取組支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 成長分野でのビジネスチャンス拡大に向けた、既存企業の自立的な取組を促すため、活動内容や事業成果等を評価し、結果を残した企業に奨励金を支給する。 成長分野でのビジネスチャンス拡大に向けた、既存企業の人材育成（技能習得、資格習得など）の取組に対して補助金を支給する。また、企業に対して、産業分野別の資格情報を提供する。 <p>②既存企業の投資促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存企業の投資を促進するため、事業者が共同して店舗や事業所等を建て替える際に補助金を支給する。（例：商業等共同建替補助制度） <p>③既存企業の情報発信の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内企業の情報発信力を高めるため、市内企業のデータベースを作成するとともに、各企業におけるホームページの作成を促進する。既存企業の情報発信力を強化することで、必要人材の確保や就業希望者とのマッチングを促進する。 <p>④市内取引の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内取引を活発化するため、行政による公共事業等の地元企業への優先発注を拡大する。 民間企業においても、地元企業との取引を優先する仕組みをつくる。
<p>役割分担 ・体制</p>	

提案 2	市内ビジネスネットワークの充実
目的	松山市内での企業、企業人の交流を活発化することで、ビジネスネットワーク（取引関係）の拡大につなげ、市内経済を活性化する。
概要	<p>①企業間での交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な企業間交流を育むため、次のような企業交流会を開催する。事務局（経済団体等）は、企業と企業とをつなぐプロデューサーとしての役割を果たす。 (例) 大規模な異業種交流会 これまで取引関係がほとんどない企業同士での交流会 経営理念が似ている企業同士での交流会 多様な企業の連携による共同事業を実施する。 (例) 企業コンソーシアムへの公共工事の発注（＝企業による共同受注） 専門性の高い技術者の共同育成（技術学校など） 企業間での人材交流（地域・業種を問わず、人材を相互に研修等で派遣） <p>②企業人の交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ目的を有する企業人が集まる場として、何らかのテーマを設定した討論会を開催する。（単に親睦をはかる交流会にしない。） Facebook などの SNS（ソーシャルネットワークサービス）への参加を促し、ネット上での企業人の交流を活発化する。それを現実世界でのビジネス交流の活発化につなげる。
役割分担 ・体制	

提案 3	補助金・支援制度の活用促進
目的	<p>国・県・市などが、様々な補助金や支援制度を実施しており、利用者にとって非常にわかりにくくなっている。</p> <p>補助金や支援制度の情報を集約し、利用者の目的別に整理・提供することにより、利用者が補助金や支援制度を活用しやすくなる環境を整える。</p>
概要	<p>①補助金・支援制度についての情報の一元的な提供</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・県・市などにより実施されている補助金や支援制度に関する情報を、ワンストップで網羅的に入手できるようにする。 ・カタカナの用語などは、日本語でわかりやすく説明する。 <p>[情報発信]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等でワンストップでの情報提供について情報発信する。
役割分担・体制	<pre> graph TD A[松山市の企業] -- 情報収集 --> B[補助金・支援制度についての情報の一元的な提供 (ワンストップ)] B -- "目的別など、わかりやすく情報を発信" --> A C[補助金・支援制度の情報を集約・整理する団体] -- "目的別など、わかりやすく情報を整理" --> B D[国] -- 情報 --> C E[愛媛県] -- 情報 --> C F[松山市] -- 情報 --> C G[補助金・支援制度などの提供主体] --- D G --- E G --- F B -- "補助金・支援制度の利用" --> A </pre>

提案 4	ものづくりのブランド化と国際展開支援
目的	松山市のものづくりの競争力を高めていくため、企業・行政が一体となって、ものづくりのブランド化や、海外マーケットへの国際展開に取り組む。
概要	<p>①ものづくりのブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期的な視点から、松山のものづくりブランドをつくる。松山市のものづくり企業の製品について、環境、デザインなどのテーマ別にブランド化を図るとともに、マーケティングを協力して実施する。 (体制例) 企業による自主的な協力組織「松山ギルド」の創設 ・ものづくりの技術力を示すため、市内の企業が協力し、代替エネルギー、医療、ITなどの成長分野の製品を部材から最終製品まで一貫して製造する。 (福祉分野の例：介護する人が無理なくできる機械・器具の開発) ・サンシャインプロジェクトなど成長分野の取組については、短期的に実績が上がらずとも、長期的な視点から育成に取り組む。 (例) 長期な資金借入補助制度の充実 <p>②海外マーケットへの国際展開支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山のものづくりを、成長が期待される海外マーケットに売り込んでいくため、松山市の企業・行政が一体となり、マーケティングや特許取得、海外での模倣品対策などに取り組む。
役割分担 ・体制	

提案 5	松山農業の6次産業化の促進
目的	松山農業の高付加価値化を進めていくため、6次産業化を推進するとともに、意欲ある農業者の新規就農や農業経営体の形成を促進する。
概要	<p>①農業の6次産業化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無農薬野菜など、美味しく、健康によい製品の栽培・生産を促進する。 ・農業の高付加価値化を進めていくため、大学との連携を進める。 ・付加価値の高い加工品を「松山ブランド」として売り出し、高価格で販売できるようにする。 ・農・漁・林産品及びその加工商品を「日曜市」などで販売する。(場所は花園町など)。 ・6次産業化の推進に向けたビジネスコンペを開催し、高い評価を受けた提案者のビジネスモデルの実現を支援する。 <p>②意欲ある農業者の新規就農や農業経営体の形成を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農希望者に農業機械・農地などをパッケージ化して提供・貸与する。 ・農地利用などに必要となる手続きなどについて情報を提供する。 ・農家の連携による大規模な農業経営体の形成を支援する。(法人化等) ・農産物が、それぞれの品目にとって最適な農地で栽培されるよう農地利用を最適化する。(適地適用) ・農業コストの低減のため、農業機械の共有を促進する。
役割分担 ・体制	<p>The diagram illustrates the operational framework. At the top, a yellow box titled '農業の6次産業化の推進' (Promotion of 6th Industrialization of Agriculture) contains two sub-processes: '付加価値の高い農産物の生産' (Production of high-value agricultural products) and '付加価値の高い加工品の生産と販売(松山ブランド)' (Production and sales of high-value processed products under the 'Matsuyama Brand'). To the right, a box labeled 'ビジネスコンペ' (Business Competition) provides 'アイデア' (Ideas) to the top box. Below this, another yellow box titled '新規就農や農業経営体の形成を促進' (Promotion of New Farming and Agricultural Business Formation) contains '農業経営体の形成(法人化)' (Formation of agricultural business entities (incorporation)) and '新規就農者' (New farmers). This bottom box receives '支援' (Support) from '行政・大学' (Administration/University) and also provides '支援' to the top box. An arrow points from the bottom box to the top box, indicating a flow of information or resources.</p>

提案 6	企業誘致の強化と定着促進
目的	地域経済の活性化のため、活力ある企業の誘致・定着を図る。
概要	<p>①企業誘致の強化と定着促進</p> <p>[誘致をめざす企業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四国は世界でも少子化が進んでいる地域だが、教育機関や教育コンサル、人材育成産業の立地を促進し、少子化対策の先例を作る。 ・ 市内の雇用を生み出すなど、地域に利益をもたらす企業を誘致する。 <p>[立地企業への支援策]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松山に呼び込みたい分野の企業に集中して投資する。 (例) 他の自治体よりはるかに大きな補助金を支給 (50 億円以上) 工業用地を事前に整備 税制面での優遇 <p>[立地環境の整備]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インフラ整備 (アクセスを便利にする。) ・ 人材育成 (→ 「よく働く」人材がいることをPR) ・ 住環境 (→ 賑わいがあり、ゆとりある暮らしをPR) <p>[誘致企業の定着に向けての取り組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誘致企業の社員等と地域とのつながりをつくる。 (例) 地域の行事への参加 ・ 松山に定着した誘致企業をロールモデルとして、他の誘致企業に紹介する。
役割分担 ・体制	<p>The diagram illustrates the process of business attraction and settlement. At the bottom is a box labeled '行政' (Administration). Two arrows point upwards from '行政' to a large yellow box at the top labeled '活力ある企業の誘致と定着' (Attraction and Settlement of Vibrant Businesses). The left arrow is labeled '立地環境' (Local Environment) and lists 'インフラ整備' (Infrastructure improvement) and '住環境' (Living environment). The right arrow is labeled '誘致施策' (Attraction Policies) and lists '補助金、税制優遇' (Subsidies, tax incentives) and '工業用地' (Industrial land). From the top yellow box, an arrow points downwards to a box labeled '地域社会' (Local Society), with the text '地域行事への参加' (Participation in local events) written next to the arrow.</p>

提案 7	起業の促進
目的	<p>わが国では、中小企業が育ちにくい風土・歴史がある。2世、3世の経営者が多く、起業が少ない。起業を増やしていくためには、起業への不安（資金、その他）を解消していくことが必要である。</p> <p>起業は、社会問題を見つめ解決方法を探るところから始まる。例えば、高齢化が進む松山市では 2025 年までに在宅介護サービスの供給を増やしていくことが必要となっている。また、市場を世界に求めていくことも考えられる。</p> <p>松山市の経済を活性化するとともに、雇用の受け皿を増やしていくため、起業を促進する。</p>
概要	<p>①起業志望者を増やす取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社の起こし方講座 ・経営者ロールモデル&メンター（メンティー）の紹介 （起業の先輩を紹介することで起業マインドを刺激する。） ・社会の不便、不安、不満などを解決する方策を考えるアイデア募集 （企業が懸賞金を出す。） <p>②起業の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業志望者がプレゼンをして出資者を募るシステムを作る。 ・融資での金利優遇（起業ローン） ・NPOに対する融資制度の創設 ・同じ目的の人たちが集団で起業できるようにする場の提供 ・シニア（スキル、資格を持つ）+若者（やる気がある）のペアでの起業を促進 <p>③起業後の会社の成長支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経理・会計といった企業経営に関する支援 ・起業家と企業をつなぐネットワークづくりの支援 ・税金の優遇 ・起業失敗時の廃業のサポート
役割分担 ・体制	

提案 8	社員の能力開発の支援
目的	<p>愛媛県内の中小企業の約8割が赤字となっており、厳しい競争のもと、経営体質を強化していくためには人材育成が不可欠である。しかし、中小・零細企業は、時間やお金の面で人材育成に取り組むことが難しい状況にある。</p> <p>そこで、これからの産業を担う若い人材を育成していくため、中小・零細企業の社員が参加しやすい研修や交流の仕組みをつくる。社員は研修等を通じて知識や技術を得るとともに、外の社会とふれることで視野が広がり、さらなる成長につながることを期待される。また、企業経営者においては、自社だけでなく地域の人材育成にも貢献していくことが望まれる。</p>
概要	<p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モチベーションUP向上委員会 ・人材力育成事業 <p>[求められる社員能力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場のニーズを的確にとらえ迅速な対応を行うこと。(事業案→予算化→実施) ・コミュニケーション能力(社員間・お客様(市民)・関係団体等) ・タイムマネジメント能力(遅くまで職場にいるのが良いとは限らない) <p>※経営者が、社員に求める能力を明確に示すことが重要である。</p> <p>[研修]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修ニーズを把握しリーズナブルな費用で受講できる講座を開催(NPO等) (方法)座学、企業・福祉施設を訪問する実地研修(中小企業の共同実施) (講師)講師ができる人材の「人材バンク」をつくる。 <p>[相談相手]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールモデル(身近なお手本)の活用(あの先輩のように自分もなりたい。) ・メンター制度(入社2～3年目の社員に社内外の相談相手をつける。) <p>※相談にのる人も成長する。(相互成長)</p> <p>[異業種交流]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを設定した異業種交流(仲間づくり、人脈づくりにつながる。) <p>※単なる交流、名刺交換に終わらせない工夫が必要 (例)主体的に事業に取り組む人材を集めて将来必要な事業を話し合う。</p> <p>[人事評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全社員が納得する人事評価システムの構築(社員も参画) <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内でのコミュニケーションの再考(メールだけでなく直接対話も重要) ・社内での人材交流の仕組みが必要(例:農作業を全社員で行うなど) ・資格取得の費用助成、働きながら資格がとれる仕組み(夜間受講、分割払い) ・作業工程の見える化(障がいのある社員も働ける→みんなが働きやすい)
役割分担 ・体制	<pre> graph TD A[中小企業の社員の能力が向上] B[座学 実地研修] --> A C[相談] --> A D[交流] --> A E[知識・技術] --> A F[中小企業の共同研修] --> B G[研修講師の人材バンク] --> F H[ロールモデル メンター] --> C I[異業種 交流] --> D J[資格 取得] --> E </pre>

提案 9	若い人材の地元就職の促進
目的	<p>中小企業は、既存の雇用を維持するため、新たな人材をとる余裕が少ない。採用する場合であっても、即戦力となる人材を求めている。</p> <p>社会に人材を送り出す側の大学において、カリキュラムや研究テーマが、このような企業ニーズとあっているかどうかを確認し、大学教育に反映する必要がある。また、形式的な就職テクニックばかりにとらわれている学生もみられるなかで、採用する中小企業と就職する学生の双方にとってよりよい結果が得られるように、大学側と企業側との対話・協議により、より適切な採用活動・就職活動が行われることを目指していく必要がある。</p>
概要	<p>[教育内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の人間基礎力を高める。(市民全体で躰、コミュニケーション能力の向上) ・勉強以外の経験も大事(→課外活動(クラブ)や趣味活動を企業・行政が支援) <p>※松山市独自の教育システム(小→中→高→大)をつくる。 (例:高校での資格取得の義務化、大学時の卒業能力の保証)</p> <p>※大学・高校、小中学校の先生と企業との交流(教育界が経済界のニーズを把握) ※経済界と教育界の融合(経済団体、まちづくり団体等への大学生の参画交流) ※採用後の社員研修の一部をNPOが安価で実施(共同実施)</p> <p>[中小企業と学生との接点づくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアと連携して中小企業の情報を発信(昼休み時間のネット配信が効果的) (例)中小企業の紹介DVDを作成し、図書館などに置く。 ・会社説明会の前に企業と学生が気楽に話せる場をつくる。 (例)中小企業の経営者が大学で講義する。 ・リアルな実態を見せる職場見学・職場実習 <p>[採用活動の見直し]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤った就職活動の情報を是正する。 (例)大手企業に就職すれば幸せになれる? マニュアルどおりの面接対応を、企業は高く評価する? ・大学の内申等を評価する。(面接だけでなく、普段の学業を評価する。) ※就職活動のために、学生が学業をおろそかにしないようにする。 ※大学から企業に学生(求職者)の情報を渡す。
役割分担 ・体制	<p>経済界 (中小企業)</p> <p>授業・課外活動の支援 情報発信 会社説明会前の交流 採用活動 就職</p> <p>学生の人間基礎力の向上 中小企業と学生との接点 採用活動の見直し</p> <p>若い人材の地元就職の促進</p> <p>教育 企業と連携した授業</p> <p>教育界 (小中学校、高校、大学)</p> <p>人材ニーズ</p>

提案 10	求職者の職業能力の向上支援
目的	<p>人材が不足している業種があり、時代が求めている人材を育てていくことが必要である。</p> <p>そこで、職業能力の向上に熱心に取り組んでいる求職者をサポートする。</p>
概要	<p>①基礎能力の習得（大学、新入社員の間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外では2年程度かけて職業を考えた上で専門性を習得できる大学で学ぶ。 ・新入社員の間基礎スキルを定着させる。 （将来、転職することになっても通用するように、新入社員の間鍛える。） <p>②求職者の就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職までの一連の流れの中で目的を明確にした上で、職業訓練をする。 ・人材が不足している職種に人材を供給するために必要な職業訓練を実施する。 ・求職者のモチベーション、やる気を伸ばす。 <ul style="list-style-type: none"> ◎モチベーション ◎リーダーシップ ◎コーチング技法 <p>これらを上手に活用できる人材を育成する。</p> <p>※非正規社員の経験しかない人も、コーチングなどの研修をうけると、がらっと人が変わり、モチベーションが上がる。人生に希望が持てるようになる。</p> <p>③能力開発の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に自己能力開発に取り組んでいる求職者をサポートする。 ※学びながら生活できるようにすることが必要 ・失業保険対象者の高等技術訓練（自己負担ゼロ）は就職率が低い。基金訓練（生活費支給あり、自己負担ゼロ）は就職率が高い。（看護師資格の人気の高い。） ・30時間程度の研修受講（受講料30万円）への支援の充実（一部助成など） ・能力開発支援制度を周知する。（訓練手当ての月額表示など情報提供で工夫を） <p>④インターンシップの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップを活用して失業者の就職を支援する。2～3社程度で就業経験を積むことで、自分にあった職探しの機会をつくる。企業にとっても、自社にあった人材を採用しやすくなる。 ※インターンシップ参加者の生活費（補助）と人件費を行政が支援する。
役割分担・体制	

提案 11	多様な人材の採用の支援
目的	<p>人材が不足している業種（農業、在宅介護など）がある。このような業種に関わる資格を取得（ヘルパー、介護福祉士等）することで、非正規社員が正社員として転職できる可能性があり、資格取得などを支援することが考えられる。</p> <p>また、シニア層や障がい者が働ける場を増やしていくことも必要である。</p> <p>なお、シニア層の活用により、若者が働ける場所を失わないように留意する必要がある。</p>
概要	<p>①多様な人材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人材の強みを活かせる職業領域、ビジネスモデルをつくる。 ・多様な人材を採用する。（例：趣味を大事に採用している企業もある。） ※多様な人材を受け入れる体験機会をつくる。（受け入れてトラブルにならないか、混乱するのではないかと企業は心配している。） ※多様な人材を採用するための採用基準、ノウハウが必要となる。 ・より多くの社員での「業務の分かち合い」を広める。（ワークシェアリング） ・企業間での一時的な人材の異動（レンタル移籍）の仕組みをつくる。 <p>②シニア人材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リタイア層に、若い世代への技能・技術の継承に協力いただく。 ・人材紹介コールセンターを設置する。（リタイア人材データベースを構築・活用） ・高齢者を雇用した企業に助成する。 <p>③障がい者が働ける場の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃から、障がい者との接点（ふれあう機会）を増やす。 ・障がい者が働く際にサポートする人材を育成する。 ※障がい者とともに、障がい者を理解しサポートできる人にペアで働いてもらう。（NPOが雇用） ・障がい者が働きやすい職場環境づくりをすすめる。（＝健常者も働きやすい。）
役割分担 ・体制	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>多様な人材が、それぞれの強みを活かせる職場</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>（例）耕作放棄地対策</p> <p>（耕作放棄地で農産物を生産）</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>（例）タオル製造</p> <p>（障がい者の指先感覚を活用しタオルを生産）</p> </div> </div> <p>↑</p> <p>多様な人材を活かす採用基準・ノウハウ、就業体験の仕組み、職場環境づくり</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>資格取得</p> <p>↑</p> <p>非正規社員</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>人材紹介コールセンターが市内外の人材を紹介</p> <p>↑</p> <p>シニア人材</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↑</p> <p>障がい者</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↑</p> <p>ペアで就業</p> <p>↑</p> <p>障がい者と共に働く人材（NPOが育成）</p> </div> </div> </div>

提案 12	経営層の人材マネジメント力の向上の支援
目的	<p>「会社は誰のものか」、「What's マネジメント」という原点を経営者は考えることが必要である。社長一人が引っ張っているのは、次の世代が育たない。会社は浮沈みをのりこえる共同の船であり、社員が生きがいを感じられる場としていくことが必要である。社員を道具・コストとしてみるのではなく、パートナー・資源として捉えることが必要であり、手を抜かず社員に教えることが経営層の責任である。起業魂を伝えるなど、いい人材を育てることが企業の発展につながる。</p> <p>このような考えから、経営層の人材マネジメント力の向上に取り組むことが必要である。</p>
概要	<p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・マネジメント育成事業 <p>[経営層に求められる能力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のような能力を高めることが必要である。心理学を学ぶことも必要である。 モチベーション、リーダーシップ、コーチング、コミュニケーション、気づき力 ・これからの経営者は「サーバントリーダー」（支援するリーダー）として、資源を提供し、下から支えるリーダーとなることが必要である。（ぐいぐいと引っ張るリーダーシップではない！！） ・若い社員を批判するのではなく、若い社員と関係をもち、現状を知ることから始める必要がある。これまでのノウハウが通用するとは限らない。今いる社員を知り、活かしていくことが必要である。 ・コンプライアンスに詳しくなることが必要である。 <p>[社員の育成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員教育や研修で、社員と経営者が経営理念を共有することが必要である。 ・社員と直接対話する機会をつくる。対話が機能するように、社員の意見や問題意識が経営トップに伝わるような風通しのよい社風づくりも重要である。 ・権限委譲により、思い切って「任せてみること」も社員の成長につながる。 <p>[経営者自身の学び]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異業種の経営層と、経営者どうしが交流できる場を設ける。 ・地域の兄貴的存在として、若い人・学生に熱いメッセージを語りかける。 (他の経営者と若者とのやりとりを横からみることも刺激となる。)
役割分担 ・体制	

テーマ3 : 災害に強いまちづくり

<p>提案1</p>	<p>防災マップを活用した防災知識・情報の普及</p>
<p>目的</p>	<p>松山市では、家庭における防災対策の実施率が低い状況にある。そのため、非常用持出袋の中身から災害時の避難経路まで役立つ情報を満載した「防災マップ」が作成され、全戸に配布されている。</p> <p>しかしながら、防災マップを読んでいない人や、防災マップの存在を知らない人もみられる。このような人たちに、防災マップの存在を知ってもらい、内容にも興味をもってもらえるような取り組みを進める。子どもからお年寄りまでが、防災の取り組みに積極的に参加し、自ら災害に備えるとともに、地域防災活動の担い手としての意識をもつことをめざす。</p>
<p>概要</p>	<p>①「防災マップ勉強会」の開催</p> <p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使いこなそう！あなたの暮らしとふる里を守る防災マップ <p>[開催場所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館・分館、学校、職場、介護施設、障がい者福祉施設、商業施設等 <p>[内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災マップの内容の紹介（食料備蓄、持ち出し袋、避難経路・避難所等） ※外出等に困難を伴う人（災害時要援護者）には個別に訪問して説明する。 ・「わがまち防災マップ」の作成 <ul style="list-style-type: none"> －防災マップをベースに、小地域（町内会単位程度）でマップを作成するワークを実施する。避難経路や避難所の確認のほか、「あそこのブロック塀が崩れそう」、「この家の人は避難に手助けがいきそう」など、地域に密着した情報を落とし込むことで、地域で共有する。 <p>②防災マップのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所や商業施設など、人が集まる場所で開催されるイベントを通じ、防災マップの内容をクイズ形式等で分かりやすく、楽しく紹介する。 <p>③多様な手段での防災マップ掲載情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GISデータで防災マップを提供（携帯電話やiPad、カーナビ、地デジなどを通じて、知りたい場所の情報をすぐに調べられるようにする。） ・市のホームページでの「マイ防災マップ作成機能」の提供（市のホームページ上で自分が見てわかりやすいマップ（文字の大きさや地域の範囲など）や、自分が欲しい情報を組み合わせたマップを作成できるようにする。） <p>④防災マップ掲載情報の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地盤の状態がわかるマップを作成し、「安全な場所に家が建っているかどうか」を確認できるようにする。
<p>役割分担 ・体制</p>	

提案 2	家具固定の促進
目的	<p>松山市では家具固定の実施率が低い。家具固定をしておく、大きな地震の時に家具が倒れにくくなり、被害を少なくすることができる。</p> <p>そこで、家庭内における住民の安全を守るため、家具固定の促進に取り組む。</p>
概要	<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震性が低いと思われる住宅に家具固定器具のサンプルを無料配布 独居高齢者等の世帯における家具固定状況の確認と設置支援 <ul style="list-style-type: none"> 家具固定状況の確認 → 民生委員、要援護者協力員、ケアマネジャー、女性消防団、女性自主防災クラブ等 器具の取り付け支援 → ボランティア、ホームセンターの店員等 家具固定器具の購入助成（自主防災組織でとりまとめ）
役割分担 ・体制	<div style="text-align: center; border: 2px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 家具固定の実施世帯の増加 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>↑ 設置状況の確認 (高齢独居世帯等)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> 民生委員 要援護者協力員 ケアマネジャー 女性消防団 女性自主防災クラブ等 </div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↑</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震性が低い住宅への器具の無料配布 家具固定器具の購入助成 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80px; margin: 0 auto;"> 行政 </div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↑ 家具固定器具 の取り付け支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> ボランティア ホームセンターの 店員等 </div> </div> </div>

提案 3	避難訓練の実施
目的	<p>松山市では、自主防災組織が全地域で設立されているが、自主防災組織により避難訓練のレベルが様々である。マンションの避難訓練での参加者も少ない。</p> <p>大規模な災害時には、公的な支援が来ないと想定して地域で助け合えるようにする必要がある。大規模な災害時に安否確認、情報収集、避難所の立ち上げを行うのは自主防災組織であり、消防団は救出作業にかかりきりになる。</p> <p>地域の自主防災組織が中心となった避難訓練を積み重ね、訓練の数を一定こなしておくことが重要である。(様々な訓練の経験者を地域で増やしておく。)</p>
概要	<p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたと私の命を守る避難訓練 ・安全、安心な町づくりに参加しよう ・訓練強化で安心な町内づくり ・みんな一緒に生きのびろ！～訓練～ ・子供、お年寄りを守る防災訓練 ・生存訓練 <p>[実施時期(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日の昼間、土日の昼間、夜間など様々な時期に実施しておくといよい。 ・地域の大きなイベント(小学校で実施)とあわせて実施する。 <p>※年間の計画を立て、年間に複数回実施できるとよい。</p> <p>※高齢者サロンで防災クイズ、カルタをする。(元気な高齢者が集うので)</p> <p>[訓練を実施する際の工夫(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催案内を各戸配布する。(回覧にしない。)学校を通じてチラシを配布する。 ・自治会会長と防災士、自主防災組織、消防団が連携して企画・開催する。 ・特別養護老人ホームは学生と一緒に避難する。(避難用のリアカーが必要) ・起震車による地震体験(子どもたちがあつまる。) ・炊き出し訓練(参加者にふるまう。) ・訓練参加者に景品(防災グッズ)を提供する。 ・訓練を楽しみながら行える工夫をする。 <p>(例)「担架レース」(運び方を消防士等のプロに習ってから実施)</p>
役割分担 ・体制	

提案 4	初動ノウハウの普及
目的	<p>大規模な地震はいつ起こるか分からない。大規模な地震発生時の初期避難では「自分と家族をいかに守るか」が大事である。まず、自分を守り、家族を守り、近所で助け合う。</p> <p>地震によって逃げる場所は違う。安全な場所は違う。地震が発生した時間帯によってもとるべき行動は異なる。地震が「朝に起こった場合」、「昼に起こった場合」、「夜に起こった場合」など、様々なケースに対応した行動を予め考えておくことが必要である。訓練した通りになるとは限らないが、「訓練をしていないよりもましである」と考え、訓練しておくことが必要である。</p>
概要	<p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひなん大作戦 ・いのち守ろう会 ・100歳まで生きる方法 <p>[防災講座の開催]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、職場（企業、工場など）、福祉施設などで強制的に防災教育の場をつくる。そして、学んだことを家庭に持ち帰ってもらう。 ・独居の人については、地域や民生委員がサポートすることが考えられる。 <p>[講座の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、危機感をもってもらう。 <ul style="list-style-type: none"> （例）震災を体験した人、ボランティアに行った人の話をきく。 映像をみる。（津波の映像など） ※建物の倒壊被害の映像もあるとよい。 ・その後、初動（身の守り方、判断の仕方）などについて教える。また、正しい情報を伝える。（「50cmの津波は安全」との誤解がみられる。） <ul style="list-style-type: none"> （例）クロスロードゲーム（災害時の意思決定を学ぶゲーム） ※ゲームを進行する指導者が必要（学校の先生など）
役割分担 ・体制	<div style="text-align: center;"> <p style="text-align: center;">初動ノウハウ普及のための防災講座の開催</p> <p>[開催場所] 学校、職場（企業、工場など）、福祉施設</p> <p>[内 容] ①危機感をもってもらう ②初動を教える（身の守り方、判断の仕方）</p> <p>↑ 体験談 ↑ 初動ノウハウ</p> <p>震災体験者 震災ボランティア</p> <p>講師（専門家）</p> <p>→ 学んだことを家族に伝える → 各家庭</p> </div>

提案 5	学校や職場等での初動体制の確保
目的	<p>大規模地震はいつ発生するかわからない。学校や病院、福祉施設、企業（オフィス、工場等）等において適切な初動をとることが求められる。</p> <p>多くの施設には、防災担当者が設置されていると思われるが、組織全体として対応できる状況になっているとは限らない。また、様々なリスクについて十分想定した対策がとられているとは限らず、個人がリスクをとることで対応しているような事例もみられる。</p> <p>大規模地震発生時に適切な初動をとれるように、関係機関の連携により実践的な対策を講じるとともに、訓練をきっちりと積み重ねておくことが必要である。</p>
概要	<p>①学校における取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年の頃から防災教育をすることで防災意識が高まる。消防などの協力を得て出前教室を行う。 ・子どもに防災教育をする前に、教員の防災教育から取り組むことが必要 ・子どもたちには、一斉行動（さっと並ぶ）を教え込むとともに、「こんな時はどうするか」と、自主的にとっさの判断ができるような学びを教える。 ・避難所となっていない学校にも食料を備蓄しておく。 <p>②病院、福祉施設における取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な震災における教訓を取り入れる。 ・福祉施設（入所施設）では、家族・知人などの連絡先（メールアドレス）を把握しておく。また、非常時の入所者の受け渡しの方法（迎えに来るのを待つ、送り届ける）を予め決めておく。非常時に、生命に関わるような常備薬を確保する方法についても家族と話し合っておく。 <p>③企業における取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理部署はマニュアルをもっているが、全ての部署で情報が共有されているとは限らない。最新の防災対策についても担当者しか持ち合わせていない可能性がある。定期的な消防訓練の時にあわせて、土嚢づくり、防水板の設置などのメニューに順番に取り組むことが考えられる。 <p>④各施設共通の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、病院、福祉施設、企業等の立地地域の周辺地域の町内会等と面識をつくり、敷地外に避難する場合の避難場所を把握するとともに、その避難場所への避難訓練をしておくことが必要である。 ・防災担当者を育成することが必要である。 （役割）①安全確保 ②安全確認（安否確認） ③避難誘導 ④情報収集・共有 ・防災担当者には訓練実施の権限を与えることが必要である。 ・防災担当者は消防等と連携するため、専門用語を把握しておく必要がある。 （消防等は専門用語をできるだけ使わない工夫が求められる。）
役割分担 ・体制	<pre> graph TD subgraph MainBox [学校や病院、福祉施設、企業等が適切な初動をとれる] A[児童・入所者・従業員] B[防災担当者] A -- 教育・訓練 --> B end B -- 連携 --> C[行政（消防等）] B -- 連携 --> D[周辺地域（町内会）] E[家族等] <--> 非常時の対応の取り決め A </pre>

提案 6	外出場所での避難場所の表示
目的	大規模地震が外出先で起きた場合には、まず、最寄りの近くのビル（デパート、企業ビル）等に飛び込み、安全を確保することが必要である。 土地勘がないため最寄りの避難場所がわからないことも考えられることから、避難場所の表示に取り組む。
概要	<p>[表示場所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道駅 ・ バス停 ・ 主要公共施設 ・ タウンボード 13ヶ所 ・ まちごとまるごとハザードマップ 等 <p>[表示内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近辺の避難場所を示した案内板を設置（表示方法を統一する。） <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大街道など人通りの多いところの避難所については電車・バス等の広告や、アナウンス（鉄道・バス等の車内アナウンス、百貨店の店内放送等）を活用して周知する。 ・ 避難時に避難場所がわからない人を見かけた場合、地域住民は声をかける。
役割分担 ・ 体制	<pre> graph TD A[外出場所での避難場所の周知] B[案内板の設置] C[アナウンス] D[案内板の設置] E[声かけ] F[鉄道・バス会社・百貨店等] G[地域住民] H[行政] F -- 案内板の設置 --> B F -- アナウンス --> C G -- 声かけ --> E H -- 協力依頼 --> F H -- 案内板の設置 --> D </pre>

提案 7	学校や職場等での初動体制の確保
目的	災害用伝言ダイヤルの番号が知られていない。
概要	<p>[取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害用伝言ダイヤルの番号を誰もがすぐに覚えられるように、わかりやすいメロディーで「171のうた」をつくり、鉄道・バスや百貨店等で放送する。
役割分担 ・ 体制	<pre> graph TD A[災害用伝言ダイヤルの番号「171」を市民全員が知っている] B[鉄道・バス会社・百貨店等] C[作曲家] D[行政] D -- 協力依頼 --> B D -- 協力依頼 --> C C -- 「171のうた」 --> B B -- 車内アナウンス・店内放送 --> A </pre>

提案 8	避難所の開設訓練
目的	<p>大規模地震の発生時には、公的な支援が来ないと想定して地域で助け合えるようにする必要がある。また、避難所を、避難や物資配分、情報提供のキーステーションとして機能させる必要がある。</p> <p>避難所を円滑に立ち上げ、適切に運営していくためには、地域で顔なじみの関係をつくるとともに、予め段取りと役割分担を決めておき、役割分担に沿った訓練を積み重ねておくことが必要である。</p>
概要	<p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マナーを守って快適な避難場所へ <p>[予め決めておくべきこと]</p> <p>(運営体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所のリーダー、指揮命令系統、学校長との連携 ・ 必要な役割（リーダー、サブリーダー、情報収集、広報担当、環境班、ボランティア、医療担当、食事班 etc）と体制 <p>※ 予め担当を決めておく → 避難所開設訓練で練習しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各避難所と災害対策本部、消防団との連絡の取り方 <p>(避難所のスペース配分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小さな子供を抱える母親への配慮 ・ プライバシーを確保するスペース <p>(備品の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮設トイレ、携帯電話の充電器、水（飲用水、生活水） <p>(二次避難所の想定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的障がい者、車いすの障がい者の二次避難所の想定・確保 <p>(トラブル対応の仕組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民の要求がいろいろ出ると思われるのでそれにどう答えるか。 ・ 被災者がストレスを抱えないよう相談スペースを作ってそこで問題に対応していく。（避難所運営の基本的なルールを予め決めておく。）
役割分担 ・ 体制	